

玉藻会報

第32号

茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会 会報

発行：茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会

行方市麻生1806

TEL 0299-72-0098 Fax 0299-72-2317

URL: <https://www.asou-h.ibk.ed.jp>

ご挨拶

茨城県立麻生高等学校
同窓会会長

横山 忠市（高十四回卒）



茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会会長の横山忠市でございます。会員並びに保護者の皆様には、平素より同窓会・後援会活動に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。同窓会を代表いたしました、厚く御礼申し上げます。

本校の同窓会組織を、「玉藻同窓会」と言いますのは、校歌の一番に出てくる「玉藻ゆたけく湖晴れて」の歌詞に由来します。この「玉藻」という言葉は、「美しい藻」を意味します。現在ではあまり聞かない言葉ではありますが、その歴史は古く、我が国最古の歌集である『万葉集』には

「常陸なる浪逆の海の玉藻こそ

引けば絶えすれあどか絶えせむ」

という短歌が載っております。「浪逆の海」とは、現在の北浦南部から潮来市あたりの江湾をさしていると言われている。

おり、今も昔も、鹿行地区が豊かな水の郷であったことがうかがえます。本同窓会に、才能溢れる若い会員の皆さんが加わり、社会の第一線で活躍してくれることで、本同窓会の輝きが一層増すものと期待しております。

麻生高校は、昭和4年（1929年）四月に茨城県で10番目の旧制中学校として、現在の麻生小学校の地に開校しました。95年の歴史の中で2万人を超える卒業生を輩出しており、その多くが、日本全国津々浦々で、各分野のリーダーとして活躍していらつしやることを、同窓会長として誇りに思います。しかしながら、地域の少子高齢化が急激に進行している現状を考えますと、本校の将来には一抹の不安があります。行方市は、2005年9月2

ご挨拶

茨城県立麻生高等学校校長

青山 泰久



同窓会並びに後援会の皆様におかれましては、日頃より本校教育諸活動に對しまして、物心両面にわたりご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

日に麻生町、玉造町、北浦町が合併して誕生しましたが、現在も人口の減少が止まらず、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2030年に3万人を切り、2060年には1万5千人にまで減少するという試算がなされております。このような状況の中で本校を存続させるためには、教育活動を充実させるとともに、広報活動にも力を入れ、今まで以上に広範囲から生徒を集めなくてはなりません。

本校の先生方には、生徒の皆さんのために、より一層のご指導をお願いいたしますとともに、我々玉藻同窓会もそれを支え、尽力していく所存でございます。茨城県立麻生高等学校の益々の発展を祈念し、ご挨拶いたします。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症も2類から5類に移行され、社会経済活動はもちろんです、学校教育活動もコロナ禍前とは変わらないう状況での活動となりました。特に学校行事に関しましては、これまで規模縮小もしくは中止となっていたものも、これまで通りの形での実施となりました。生徒が生き生きとした表情で活動する姿に、やっと当たり前の日常が戻ってきたと教職員一同、安堵と喜びを感じている次第です。

このような中、教育界もここ数年で大きな改革がございました。代表的なものとしては、学習指導要領の改訂と大学入試センター試験に代わる大

入学共通テストの実施があげられます。1、2学年においては、すでに新学習指導要領での教育活動が展開されており、来年度は全学年において新学習指導要領での教育活動となります。改定の概要としましては、「子どもたちが自分で未来を切りひらいていけるように、生きていくための資質・能力を育んでいく」ことを重視するとし、学びに向かう力・人間性の育成、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の3つの柱が示されました。また、「どのように学ぶか」ということが重要視され、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すとしています。

このことを受け、本校におきましても、昨年度より「スクールポリシー」として3つの柱（グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッシェンポリシー）を掲げ教育活動を推進しております。特に今年度は、それぞれの学年が自分らしさや将来の生き方について自らテーマや課題を設定し、その目標に対して他者と共に試行錯誤しながら能力や知識を養うことにより、社会変化が激しい現代において、生徒自身が自分らしく生きる力を身につけることを養うための学習として、地域課題解決型学習に焦点を当て「総合的な探究の時間」の充実に努めてまいりました。また、これまで同様、地域の方々、特に幼稚園から小・中学



校までの学校や行政関係機関との連携を図ることにより、地域から評価され、地域とともにある学校として、社会に開かれた教育活動の実現に取り組んできたところでございます。今後も、玉藻イズム（これまでの本校の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、新たな取り組みへのチャレンジを積極的に進める精神）を継承し、本校生徒が更なる自信と誇りを持てるよう教職員一丸となり邁進していく所存でございます。同窓会並びに保護者の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

令和五年度 各部活動の活動状況

◆男子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール大会茨城県予選会 第3位

第69回関東高等学校ハンドボール選手権大会出場 2年連続39回目

全国高校総体ハンドボール大会茨城県予選会 第3位

関東高等学校ハンドボール選抜大会茨城県予選会 ベスト8

◆女子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール大会茨城県予選会 第2位

第69回関東高等学校ハンドボール選手権大会出場 2年連続36回目

全国高等学校総合体育大会ハンドボール大会茨城県予選会 第2位

関東高等学校ハンドボール選抜大会茨城県予選会 ベスト8



◆サッカー部

茨城県リーグU18 IFA4部リーグ 関東高等学校サッカー大会茨城県予選会 ベスト16

◆硬式野球部

全国高等学校総合体育大会茨城県大会 出場

第102回全国高校サッカー選手権大会茨城県大会 出場

茨城県高校サッカー新人大会 出場

第75回春季関東地区高等学校野球茨城県大会県南地区予選

代表決定戦進出

第105回全国高等学校野球選手権茨城県大会 2回戦進出

第76回秋季関東地区高等学校野球茨城県大会県南地区1次予選 出場

第76回秋季関東地区高等学校野球茨城県大会県南地区2次予選 代表決定戦進出

県東地区高等学校野球大会 準優勝

代表決定戦進出

代表決定戦進出

代表決定戦進出

代表決定戦進出

代表決定戦進出

代表決定戦進出



◆男子バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール大会
茨城県予選会県東地区大会出場
全国高校総合体育大会バスケット
ボール大会茨城県予選会県東地区大
会出場
関東高校新人バスケットボール茨城
県予選会県東地区大会出場

◆女子バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール大会
茨城県予選会県東地区大会 優勝
関東高等学校バスケットボール大会
茨城県予選会出場
全国高等学校総合体育大会バスケッ
トボール競技茨城県予選会県東地区
大会 優勝
全国高等学校総合体育大会バスケッ
トボール競技茨城県予選会

ベスト16

全国高等学校バス
ケットボール選手
権大会

[Winter Cup 2023]

茨城県最終予選会

ベスト8

関東高校新人バス

ケットボール大会

茨城県予選会県東

地区大会 優勝



◆女子バレーボール部

第77回関東高等学校男女バレーボー
ル大会茨城県県東地区予選会
第2位
第77回関東高等学校男女バレーボー
ル大会茨城県予選会出場

全国高等学校総合体育大会男女バレー
ボール大会茨城県県東地区予選会

第3位

全国高等学校総合体育大会男女バ
レーボール大会茨城県予選会出場

茨城県高等学校男女バレーボール新

人大会県東地区予選会 第4位

茨城県高等学校男女バレーボール新

人大会出場



◆男子ソフトテニス部

関東高等学校ソフトテニス大会県東
地区予選会出場
全国高校総体ソフトテニス大会県東
地区予選会出場
茨城県高等学校ソフトテニス新人大
会県東地区 予選会出場

◆女子ソフトテニス部

関東高等学校ソフト
テニス大会県東
地区予選会
団体の部
第3位
全国高校総体ソフト
テニス大会県東
地区予選会出場



茨城県高等学校ソフトテニス新人大
会 県東地区予選会出場

◆卓球部

関東高等学校卓球大会県東地区予選
会出場

女子団体2位

女子シングルス7位

(県大会進出)

全国高校総体卓球県東地区予選会出場

女子団体優勝

女子ダブルス4位

女子シングルス7位

8位

(県大会進出)

茨城県高校卓球新人戦

大会出場

全国高校総体卓球県大

会出場(女子団体・シ

ングルス・ダブルス)

東京卓球選手権大会ジ

ユニアの部茨城県予選

会出場

◆弓道部

県東地区夏季大会
男子団体2位

県東地区夏季大会
男子個人3位

全国高校弓道大会

茨城県予選会

男子団体5位

全国高校弓道選抜大

会県東地区予選会

男子団体

男子個人

3位

1位

2位



全国高校弓道選抜大会

茨城県予選会 女子ベスト8

(決勝トーナメント進出)

◆男子陸上競技部

県東地区高等学校陸上競技対校選手
権大会

総合2位

100m 8位

200m 7位

80m 5、8位

1500m 8位

5000m 8位

4000mH 2位

4x100mR 3位

4x400m 4位

走高跳 1、2位

走幅跳 4、6、8位

三段跳 1、2、7位

砲丸投 1、4位

円盤投 2、5位

やり投 2、3位

八種競技 1位

(以上県大会進出)

茨城県高等学校陸上競技対校選手権

大会

八種競技 3位(関東大会進出)

砲丸投 8位

円盤投 8位

関東高校陸上競技大会出場

八種競技

県東地区高等学校陸上競技新人大会

総合3位

400m 6位

800m 5位

1500m 4位

4000mH 1位

麻生高校での学び

教頭 神原忠志

(高三十四回卒)



昭和57年3月に卒業し、40年ぶりに教頭として母校へ戻りました。卒業生として、このような機会を与えていただきましたこと、感謝しております。

現在の校舎は、防音工事・耐震工事を経て、当時とは様変わりした校舎ではありますが、とても懐かしく感じております。残念なのは、当時できたばかりのプールが使われなくなってしまうってしたことです。中学時代に水泳部に所属していた私は、完成を心待ちにしていたことを憶えています。夏休みには、課後の後に、体育の先生方をお願いして、プールをお借りし、友人達と水浴びをしたこともありました。下校途中に小学校協の駄菓子屋で友人達とアイスを頬張ったこともいい思い出です。寂しいことですが、その駄菓子屋も姿

を消してしまい、街の様子も変化してしまいました。

教頭として、同窓会の方々とお会いして、その活動を頼もしく感じています。特に、建友玉藻会のみなさんが花植をしてくださっていることは、とてもありがたいと思います。在校時は、新しい丘の上の校舎であり、造成された校庭の植栽も弱々しく、殺風景で、生徒会副会長だったH君が「花壇が欲しい」と言っていたことを思い出しました。学校は情操を養う場でもあります。後輩達への心遣い、先輩方との繋がりを実感しております。

学校教育はさらに大きく様変わりしています。国のGIGAスクール構想のもと、生徒一人一人がタブレットPCを持ち、普段の授業でも、調べ学習での検索やプレゼン資料作成などと使われています。

私が教員として採用された当時は、コンピュータはまだ物珍しく、やっと業務に使われ始めたばかりと言った時代でした。授業の合間に、せつせとBASiCでソフトプログラムを書き、学年順位を出していたことは、いまでは笑い話です。他にも、いまでは聞かなくなったCAIなる言葉もありました。しかし、教育のコンピュータ利用は、手探りで、生徒が直接PCに触れる機会は多くはありませんでした。教員もPCではなく、ワープロ専用機を愛用する方が大半でした。

Windowsの登場で、多くの業務がExcelで処理できるようになり、イン

ターネットの普及から、先生方の機器もワープロ専用機からPCへと変わりました。

次なる変化はAIの台頭ではないでしょうか。分からない問題は、AIに普段使いの言葉で質問すれば、すぐに解答が得られ、手順がわからければ、動画もあります。AIは機械です。だから、解答できず戸惑う生徒を怒りもせず、急かしもせずに、じっと待っていてくれる。生徒が問えば、適当な解答をいくつも紹介してくれます。機械だからこそその利点があります。もう、教科書をなぞり、知識を教える昔ながらの教員はお払い箱となり、生身の人間である必要さえもありません。いわゆる「学校の先生」は、10年後になくなっていく職業かもしれません。

とはいえ、AIが万能な教員という



神原忠志



わけではありません。その危険性もあります。AIの知識の源は、インターネットです。世界中の文献等から、素早く学習して、最適解を探し出し提示してくれますが、どの誰だかわからない人の主義、主張までも学習し、あたかも「正しい」解答として見せてくれることもあります。玉石混淆、真偽入り交じったインターネットの情報を見抜くことは大変難しいものです。

では、これからの教員の仕事とは何か。学ぶことが面白い。学ぶことが豊かになれる。何が有用で、何が危険なのか。学ぶことが未来へ繋がることを示せる教員こそが、「教師」として求められるのではないのでしょうか。

しかし、私自身そんな教師になれる自信はありません。でも、小さな事でもいいから、何かに挑戦することをしていきたい。そんな思いから、50歳過ぎて、第二種電気工事士を取得したり、最近では流行のコンピュータ言語Pythonに触れたりしています。

今年度で役職定年を迎え、来年度からまた教壇へ戻ることとなる予定です。母校の教壇に立てるかどうかは分かりませんが、次世代を担う生徒達に少しでも「学ぶ」姿勢をみせられたらと思っています。

最後になりますが、同窓会の皆様におかれましては、今後とも母校の発展と生徒達の活躍を見守っていただければ幸いです。

東京玉藻会総会開催

東京玉藻会（箕輪光博会長・高13回卒）の総会並びに懇親会が、令和5年12月2日（土）に、東京四谷のスクワール麹町会館にて、盛大に開催されました。麻生高等学校を代表して神原忠志教頭、大貫誠事務長が招待され、会員の皆様と懇親を深めて参りました。

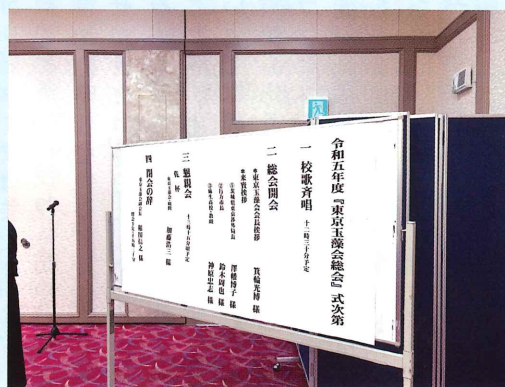
東京玉藻会は、旧制麻生中学校と麻生高等学校を卒業し、現在東京近郊に在住する同窓会員の支部組織です。



連絡先

深澤 真
東京都文京区目白台3-17-6
TEL 03-3943-2525

参加を希望する方は、深澤真さん（高14回卒）までご連絡ください。



一年生 総合探究発表会

一月三十一日に、本校体育館にて一年生の総合探究授業の発表会が行われました。

行方市市長や麻生中学校の教頭先生なども聴講にいらっしゃった中、生徒たちは自分たちが調査、考察した結果をスライドにまとめ上げ、一生懸命発表しておりました。



編集後記

玉藻会報第三十二号を発行することができました。元号が令和に変わり、6年目を迎えました。月日が経つ早さに驚かされるばかりです。

来年度がより良き一年となりますよう祈念し、編集後記とさせていただきます。